

令和6年度

情報・マネジメント学科
シラバス
【2年生】

札幌商工会議所付属専門学校

目次

| | |
|---------------------------|--------|
| 情報・マネジメント学科 実務家教員一覧 | - 2 - |
| 情報・マネジメント学科 目標資格一覧 | - 3 - |
| 2年次 | - 4 - |
| 経営学とマネジメントⅡ | - 5 - |
| ビジネスプラン | - 6 - |
| マーケティングⅡ | - 7 - |
| ビジネスデータ活用 | - 8 - |
| プレゼンテーション | - 9 - |
| プレゼンテーション演習 | - 10 - |
| 情報デザイン | - 11 - |
| コンテンツ作成の応用 | - 12 - |
| 上級オフィスソフト演習Ⅱ | - 13 - |
| ビジネス文章作成演習 | - 14 - |
| ファイナンシャルプラン | - 15 - |
| ビジネス知識応用 | - 16 - |
| ビジネスマナー応用 | - 17 - |
| 体育Ⅱ | - 18 - |
| 企業講話Ⅱ | - 19 - |
| コミュニケーションアワーⅡ | - 20 - |

情報・マネジメント学科 実務家教員一覧

| 学年 | 授業科目名 | 時間数 | 担当教員 | 具体的な実務経験 |
|----|--------------|-----|--------|--------------|
| 2年 | 経営学とマネジメントⅡ | 75 | 工藤 貴子 | マーチャンダイザー10年 |
| 2年 | ビジネスプラン | 75 | 工藤 貴子 | マーチャンダイザー10年 |
| 2年 | マーケティングⅡ | 15 | 工藤 貴子 | マーチャンダイザー10年 |
| 2年 | ファイナンシャルプラン | 90 | 城戸 ゆりか | 元職業訓練校 指導教員 |
| 2年 | ビジネス文章作成演習 | 30 | | |
| 2年 | 情報デザイン | 60 | 工藤 貴子 | デザイナー経験 15年 |
| 2年 | プレゼンテーション演習 | 45 | | |
| 2年 | コンテンツ作成の応用 | 60 | | |
| 2年 | ビジネス知識応用 | 60 | 徳田 智恵子 | 元小売店・飲食店従業員 |
| 2年 | 上級オフィスソフト演習Ⅱ | 120 | 坂元 夕季 | 元企業事務担当 |
| 2年 | ビジネスマナー応用演習 | 30 | 江口ちひろ | マナー研修講師 |
| 2年 | 企業講話Ⅱ | 15 | 企業経営者 | 道内企業経営者 |
| 2年 | 体育Ⅱ | 30 | 赤川 智保 | バレエスタジオ主宰 |
| 合計 | | 705 | | |

※担当講師は変更になる場合があります。

情報・マネジメント学科 目標資格一覧

| 資格名 | 全員受験月 | 年回数 | 検定試験実施月 |
|--|-----------|-----|--|
| 全国経理教育協会主催 電卓計算能力検定 3 級以上 | | 4 回 | 5 月・7 月 10 月・12 月 |
| サーティファイ主催 Excel 表計算処理技能検定試験 3 級 | | 4 回 | 7 月・10 月 11 月・2 月 |
| 経済産業省情報処理技術者試験 IT パスポート試験 | | - | CBT 方式にて受験 |
| リテールマーケティング販売士 | | - | CBT 方式にて受験 |
| サーティファイ主催 Excel 表計算処理技能検定試験 2 級 | | 4 回 | 6 月・7 月 11 月・2 月 |
| 職業教育・キャリア教育財団主催 ビジネス能力検定ジョブパス 2 級 | 2 年 1 2 月 | - | CBT 方式にて受験 |
| 日本情報処理検定協会 日本語ワープロ検定試験 3 級以上 | | 4 回 | 6 月・10 月 12 月・2 月 |
| 日本商工会議所主催 簿記検定試験 3 級 | | 5 回 | 6 月・11 月・2 月 (7 月・12 月) ※その他、CBT で実施 |
| サーティファイ主催 Excel 表計算処理技能検定試験 1 級 | | 4 回 | 6 月・7 月 11 月・2 月 |
| サーティファイ主催 Access ビジネスデータベース技能検定 試験 3 級 | 2 年 7 月 | 3 回 | 7 月・10 月・12 月 |
| 日本 F P 協会主催 ファイナンシャル・プランニング技能検定 3 級 | 2 年 9 月 | 2 回 | 9 月 ※その他、CBT で実施 |
| サーティファイ主催 Access ビジネスデータベース技能検定 試験 2 級 | 2 年 1 2 月 | 3 回 | 7 月・10 月・12 月 |

※検定名・受験する検定は変更になる場合があります。

※全員受験の時期は変更になる場合があります。

※1 度の受験で取得が出来なかった検定は在学中に再受験をしてもらいます。

2 年次

| | | | |
|--|---|--|-------|
| 科目名 | 経営学とマネジメントⅡ | 総授業時間 | 75 時間 |
| 担当教員 | 工 藤 貴 子 | 単位数 | 5 単位 |
| 開講期間 | 4 月～12 月 | 実務経験 | 有 |
| 科目の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・企業の経営戦略や人材マネジメントのフレームワークを学ぶ。 ・会社数字（計数）を関連させて経営の概要を理解する。 産学連携授業を通して実践的な経営について学ぶ。 | | |
| 到達目標 | 経営戦略に関する基本概念及び基本理論を十分に理解し、応用事例において基本理論を使いこなして経営戦略の策定を行うことができる。 | | |
| 目標検定 | なし | | |
| 使用テキスト | 適宜、講師より授業データまたは、プリントが配布される。 参考図書：「世界一楽しい決算書の読み方」株式会社 KADOKAWA 「計数感覚ドリル」朝日新聞出版 | | |
| 授 業 内 容 | | | |
| 前期授業計画 | | 後期授業計画 | |
| 1. 経営と戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に必要な経営 ・経営戦略策定のためのフレームワーク 2. 組織マネジメントのフレームワーク <ul style="list-style-type: none"> ・チームマネジメントの必要性 ・人事システム 3. マーケティング・営業の計数感覚 <ul style="list-style-type: none"> ・売上原価 粗利益 ・機会損失 在庫ロス ・売上高営業利益率 ・限界利益率 4. 経営分析 決算書の読み方 <ul style="list-style-type: none"> ・貸借対照表 ・損益計算書 ・キャッシュフロー計算書 5. 産学官連携企画 <ul style="list-style-type: none"> ・原価計算 売価設定 ・広告戦略 ・販促企画 | | 1. ビジネスプランに必要な会計 <ul style="list-style-type: none"> ・年間商品販売計画 ・原価計算 ・目標利益の計算 2. 事業試算表 日本政策金融公庫創業計画書 3. ビジネスプロデュースコンペティション <ul style="list-style-type: none"> ・社会課題とターゲットの設定 ・市場規模の分析と需要予測 ・顧客セグメント ・価値提案 ・販路・計画 ・販促企画 7. 経営計画 中長期経営計画 短期経営計画 | |
| 成 績 評 価 方 法 | | | |
| 前 期 | | 後 期 | |
| 1. 定期試験……………50% | | 1. 定期試験……………50% | |
| 2. 授業内レポート提出…30% | | 2. 授業内レポート提出…30% | |
| 3. 出席状況・平常点……20% | | 3. 出席状況・平常点……20% | |

| | | | |
|--|--|---|-------|
| 科目名 | ビジネスプラン | 総授業時間 | 75 時間 |
| 担当教員 | 工 藤 貴 子 | 単位数 | 5 単位 |
| 開講期間 | 4 月～12 月 | 実務経験 | 有 |
| 科目の概要 | 市場ニーズを分析したうえで、ビジネスプランを策定。 コンテスト応募作品の制作（販促コンペ6月・ビジネスプロデュースコンペティション12月） 産・学・官連携授業 | | |
| 到達目標 | 新規事業を立案する過程を理解し、仮説構築力、論理的な説明ができる。 | | |
| 目標検定 | なし | | |
| 使用テキスト | 適宜、講師より授業データまたは、プリントが配布される。 「この一冊で全部わかる ビジネスモデル 基本・成功パターン・作り方が一気に学べる」 SB クリエイティブ 「創業の手引き」日本政策金融公庫 | | |
| 授 業 内 容 | | | |
| 前期授業計画 | | 後期授業計画 | |
| 1. ビジネスモデルとは 戦略モデルの構成要素 （ビジネスモデルキャンバス） ビジネスモデル分析（Amazon） 2. 企画のための情報収集（販促コンペ） ・企業課題分析 ターゲット コンセプト ・アイデアの発想法 VP マップと価値提案 ・企画書制作 3. ビジネスモデルの分析 ・戦略モデル ・オペレーションモデル ・収益モデル | | 1. 起業・創業について ・日本政策金融公庫（創業支援事業） 2. 創業動機と目的 アイデアの整理 3. ビジネスモデルの検討（3C分析） ターゲット 競合他社 自社の経営資源 4. ビジネスモデルの具体化 誰に・何を・どのように（4P） 5. 創業計画書 6. 資金計画 7. 収支計画 8. 返済計画 9. 売上予測 10. ビジネスプロデュースコンペ審査用紙 | |
| 成 績 評 価 方 法 | | | |
| 前 期 | | 後 期 | |
| 1. 提出課題とプレゼンテーション…50% 2. 授業内レポート……………30% 3. 出席状況・授業態度……………20% | | 1. 提出課題とプレゼンテーション…50% 2. 授業内レポート……………30% 1. 出席状況・授業態度……………20% | |

| | | | |
|--------|--|-------|------|
| 科目名 | マーケティングⅡ | 総授業時間 | 15時間 |
| 担当教員 | 工藤貴子 | 単位数 | 1単位 |
| 開講期間 | 4月～7月 | 実務経験 | 有 |
| 科目の概要 | 実践的なマーケティングの各手法を学び、現場で成果を出す戦略や施策を見極め、立案できる力を養う。(産・官・学連携授業対象) | | |
| 到達目標 | 企画立案に必要な情報を整理し、具体的なマーケティング戦略を立案できる。 | | |
| 目標検定 | なし | | |
| 使用テキスト | 適宜、講師より授業データまたは、プリントが配布される。 | | |

授 業 内 容

| 前期授業計画 | 後期授業計画 |
|---|--------|
| <p>1. ブランディングについて</p> <p>*産学官連携授業 (ファミマ・白石区・わらく堂様)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランドの定義 ・ブランドコンセプト ・ペルソナマーケティング ・ターゲティング ・キャッチコピー ・パッケージデザインの役割 <p>2. SNS 動画マーケティング</p> <p>*産学連携授業 (スイーツ Deco いるむ様)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターゲット設定 ・動画企画 (ストーリー) ・動画撮影 ・動画編集 <p>3. ニュースリリース活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアの種類 ・メディアへのアプローチ法 ・事例研究 良いリリースと悪いリリース ・リリース作成演習 | |

成 績 評 価 方 法

| 前 期 | 後 期 |
|-----------------------|-----|
| 1. 提出課題とプレゼンテーション…50% | |
| 2. 授業内レポート……………30% | |
| 3. 出席状況・授業態度……………20% | |

| | | | |
|--|---|---|-------|
| 科目名 | ビジネスデータ活用 | 総授業時間 | 60 時間 |
| 担当教員 | 齊 藤 剛 | 単位数 | 4 単位 |
| 開講期間 | 4 月～12 月 | 実務経験 | 無 |
| 科目の概要 | 市場・顧客の分析とマーケティング戦略の立案のための知識の習得とビジネスプランのための情報分析を行えるようになる。 データの入手経路や整理・集計・分析方法を学び、効果的な情報として活用できるスキルを身に付ける。 | | |
| 到達目標 | データ分析に必要な基礎知識を身に付け、必要なフレームワークおよびツールを使い、収集したデータを定量的に分析・立証することができる。 | | |
| 目標検定 | なし | | |
| 使用テキスト | FOM 出版 よくわかる Excel ではじめるデータ分析 他 配布されるプリント教材 | | |
| 授 業 内 容 | | | |
| 前期授業計画 | | 後期授業計画 | |
| 1. オリエンテーション 2. データの傾向を把握する ・データ分析の基礎知識を学ぶ ・代表値を使ったデータ分析 3. データを視覚化する ・ピボットテーブルの活用 ・グラフによる視覚化 4. 仮説を立てて検証する ・仮説検定の手法を学ぶ 5. 関係性を分析してヒントを見つける ・相関分析の手法を学ぶ 授業計画の順序が入れ替わる場合があります。 | | 6. シミュレーションして最適解を見つける ・ゴールシークの活用方法を学ぶ ・ソルバーの活用方法を学ぶ 7. 分析に適したデータ整理 ・テストデータ生成方法とデータ整理 8. データ分析演習 ・演習問題を通じた実践力の養成 | |
| 成 績 評 価 方 法 | | | |
| 前 期 | | 後 期 | |
| | | 1. 課題提出・・・・・・・・・・ 80% 2. 平常点・出席状況・・・・ 20% | |

| | | | |
|--------|---|-------|-------|
| 科目名 | プレゼンテーション | 総授業時間 | 30 時間 |
| 担当教員 | 木 村 成 一 | 単位数 | 2 単位 |
| 開講期間 | 4 月～ 7 月 | 実務経験 | 無 |
| 科目の概要 | プレゼンテーションソフト（パワーポイント）の作成方法を理解し、簡潔で無駄のない資料を作成できるようにする。 | | |
| 到達目標 | ビジュアルプレゼンテーションをマスターし、シンプルでも多くの要点を満たした資料作成を作れるようにする。 | | |
| 目標検定 | 特になし | | |
| 使用テキスト | 30 時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2021（実教出版） | | |

授 業 内 容

| 前期授業計画 | 後期授業計画 |
|---|--------|
| 1 プレゼンテーションの概要（講義） ・プレゼンテーションとは何かを理解する。 2 プレゼンテーションソフトを使う意義（講義） ・プレゼンテーションの必要性とプレゼンテーションの種類にどのようなものがあるのかを理解する。 3 Power Point の基本操作（実技） ・テンプレートを使った新規作成 ・スライドショーの表示 ・ファイルの保存・開く 4 Power Point を使った資料の作成（実技） ・文字・画像の入力 ・スライドの追加・削除、レイアウトの変更 ・配布資料の印刷 5 プレゼンテーションのテクニック（実技） ・配色、テキストの書式設定 ・Excel のグラフ挿入 ・アニメーションの設定 6 プレゼンテーションの実施（実技） ・伝え方の工夫（マイク、配布資料等） ・リハーサル（進め方のチェック） ・プレゼンテーションの進行 ・実施後の評価と改善（講義・演習） | |

成 績 評 価 方 法

| 前 期 | 後 期 |
|---|---|
| 1. 課題・レポート……………10% 2. 実習(態度)……………80% 平常点・その他…………… 10% | 1. 課題・レポート……………10% 2. 実習(態度)……………80% 平常点・その他…………… 10% |

| | | | |
|--------|---|-------|-------|
| 科目名 | プレゼンテーション演習 | 総授業時間 | 45 時間 |
| 担当教員 | 工 藤 貴 子 | 単位数 | 3 単位 |
| 開講期間 | 9 月～12 月 | 実務経験 | 有 |
| 科目の概要 | 聴き手に理解・納得・共感してもらい、自分が望む行動をとってもらうための能力を磨く。特に、ビジネスプランの資料作成やプレゼンテーションの実演を行う。 | | |
| 到達目標 | ビジネスプレゼンテーションのゴールとなる「聴き手を動かす・導く」ことを目的に、論理的なプレゼンテーションを構築・実施していくことができる。 | | |
| 目標検定 | なし | | |
| 使用テキスト | 適宜、講師より授業データまたは、プリントが配布される。 | | |

授 業 内 容

| 前期授業計画 | 後期授業計画 |
|--------|--|
| | 1. 論理的思考と相手に伝わる文章作成 <ul style="list-style-type: none"> ・文章の要約 ・書き言葉 ・句読点の使い方 ・接続詞の使い方 2. プレゼン資料の制作（配布資料） <ul style="list-style-type: none"> ・読みやすい資料づくり ・フォント、画像、グラフ配置について 3. プレゼン画面の制作（パワーポイント） <ul style="list-style-type: none"> ・視覚に訴える画面構成について ・色彩計画 ・画像処理・グラフ ・アニメーション ・動画・音楽挿入 4. ビジネスプランプレゼンテーション プレゼンデータの作成（Power Point） プレゼンテーション |

成 績 評 価 方 法

| 前 期 | 後 期 |
|-----|---|
| | 1. 提出課題とプレゼンテーション…50% 2. 授業内レポート……………30% 3. 出席状況・授業態度……………20% |

| | | | |
|---|---|--|-------|
| 科目名 | 情報デザイン | 総授業時間 | 60 時間 |
| 担当教員 | 工 藤 貴 子 | 単位数 | 4 単位 |
| 開講期間 | 4 月～12 月 | 実務経験 | 有 |
| 科目の概要 | 情報を効果的に伝達するための UI デザインの基本を学び、情報のわかりやすさや使いやすさのあるデザインについて学習する。 | | |
| 到達目標 | 情報を伝達するための分かりやすさや操作性をユーザー目線で考えて設計することができる。 | | |
| 目標検定 | なし | | |
| 使用テキスト | 適宜、講師より授業データまたは、プリントが配布される。 参考図書：UI デザインの教科書 [新版] マルチデバイス時代のインターフェース設計 翔泳社 | | |
| 授 業 内 容 | | | |
| 前期授業計画 | | 後期授業計画 | |
| 1. デザイン思考について <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン思考の特徴 ・デザイン思考が注目される背景 ・知覚理論 ・UI と UX ・ユニバーサルデザイン 2. 物理的な制約 <ul style="list-style-type: none"> ・デバイスのバリエーション ・入力手段の違い ・画面サイズと向き 3. ソフトウェアの影響 <ul style="list-style-type: none"> ・Web とアプリ ・テキスト 画像 動画 ・速度 4. 人間の認知特性 <ul style="list-style-type: none"> ・色 形 動き ・一貫性 ・共通概念 | | 1. エディトリアルデザインについて <ul style="list-style-type: none"> ・用紙サイズ ・綴じ方・折り方 ・印刷に必要なデータ種類とサイズ 2. Web デザインの階層と構造 <ul style="list-style-type: none"> ・階層の深さと広さ 3. ナビゲーションとインタラクション <ul style="list-style-type: none"> ・ヘッダ ・フッタ ・パンくずリスト ・カラムと左右ナビゲーション 4. WEB サイト制作 <ul style="list-style-type: none"> ・デザインコンセプト ・サイト設計 UX デザイン コンテンツ企画 SEO 対策 | |
| 成 績 評 価 方 法 | | | |
| 前 期 | | 後 期 | |
| 1. 提出課題……………80% | | 1. 提出課題……………80% | |
| 2. 出席状況・授業態度…20% | | 2. 出席状況・授業態度…20% | |

| | | | |
|--|--|--|-------|
| 科目名 | コンテンツ作成の応用 | 総授業時間 | 60 時間 |
| 担当教員 | 工 藤 貴 子 | 単位数 | 4 単位 |
| 開講期間 | 4 月～1 2 月 | 実務経験 | 有 |
| 科目の概要 | ビジネスプランの資料制作や、販促物の制作のために必要な広告知識と、CG スキルの応用。主に PowerPoint Adobe Illustrator・Adobe Photoshop の操作を中心に DTP (印刷) を習得。Adobe Premia&After Effects による、動画広告の制作を行う。 | | |
| 到達目標 | グラフィックソフトを使用した実習により、デジタルデザインワークの基礎知識・応用力を習得し企画書制作や販促活動ツールとして活用できる。 | | |
| 目標検定 | なし | | |
| 使用テキスト | 適宜、講師より授業データまたは、プリントが配布される。 | | |
| 授 業 内 容 | | | |
| 前期授業計画 | | 後期授業計画 | |
| 1. 販促物の制作 *産学官連携授業 (ファミマ・白石区・わらく堂様) ・パッケージデザイン ・POP デザイン ・フライヤー ・ギフトバッグ 2. 写真・動画撮影の基礎 ・データの種類 ・構図 ・自然光と照明 ・編集作業 Adobe Photoshop Premia After Effects 3. リール動画制作 *産学連携授業 (スイーツ Deco いるむ様) Tik Tok Instagram のための動画 | | 1. ディスプレイ企画と実習 *産学連携授業 (スイーツ Deco いるむ様) 10 月 ハロウィン *産学官連携授業 (ファミマ・白石区・わらく堂様) 9 月 しろいしふるさと祭り 2. パンフレット制作 タウン誌の作成 (8P フルカラー) ・誌面構成 ・取材 ・編集 3. WordPress ・Web サイト作成の流れ ・管理画面の設定 ・テーマのカスタマイズ ・記事の投稿 ・記事編集 | |
| 成 績 評 価 方 法 | | | |
| 前 期 | | 後 期 | |
| 1. 提出課題……………80% | | 1. 提出課題……………80% | |
| 2. 出席状況・授業態度…20% | | 2. 出席状況・授業態度…20% | |

| | | | |
|---|--|--|--------|
| 科目名 | 上級オフィスソフト演習Ⅱ | 総授業時間 | 120 時間 |
| 担当教員 | 坂 元 夕 季 | 単位数 | 8 単位 |
| 開講期間 | 4 月～12 月 | 実務経験 | 有 |
| 科目の概要 | データベースソフト Access の習得 | | |
| 到達目標 | ビジネス社会における通常のデータベース処理を行うことができ、同時にパソコンとデータベースに関する実践的な技能を習得する。 | | |
| 目標検定 | サーティファイ データベース 3 級・2 級 | | |
| 使用テキスト | ウイネット Access クイックマスター サーティファイ検定問題集 | | |
| 授 業 内 容 | | | |
| 前期授業計画 | | 後期授業計画 | |
| 1. データベースのしくみ 2. Access の基本操作 3. データベースファイルの作成 4. テーブル 5. クエリ 6. フォーム 7. レポート 8. 検定に向けての問題演習 (3 級) | | 1. リレーションシップ 2. マクロ 3. 検定に向けての問題演習 (2 級) 4. マクロの応用 5. アプリケーション活用 6. 宛名ラベルの作成 7. 処理の自動化 | |
| 成 績 評 価 方 法 | | | |
| 前 期 | | 後 期 | |
| 1. 定期試験……………50% 2. 課題提出……………30% 3. 平常点その他…20% | | 1. 定期試験……………50% 2. 課題提出……………30% 3. 平常点その他…20% | |

| | | | |
|---|---|---|-------|
| 科目名 | ビジネス文章作成演習 | 総授業時間 | 30 時間 |
| 担当教員 | 城 戸 ゆりか | 単位数 | 2 単位 |
| 開講期間 | 4 月～12 月 | 実務経験 | 有 |
| 科目の概要 | ビジネス文書を中心とした実務能力を育成する。また、文書の取扱いや保管方法など基本的な知識を深める。 | | |
| 到達目標 | 簡単な原稿からわかりやすいビジネス文書を作成できるようにする。 | | |
| 目標検定 | なし | | |
| 使用テキスト | 適宜、講師よりプリントが配布される。 | | |
| 授 業 内 容 | | | |
| 前期授業計画 | | 後期授業計画 | |
| 1. ビジネス文書の役割・種類 (ファイリングの方法など) 2. 効率よく伝わる文書をつくる Ⅰ. 標記技能 (用字、用語、書式について) Ⅱ. 表現技能 (正確な文章、わかりやすい文章、 礼儀正しい文章について) 3. 社内文書の作成 (部署内連絡、上司への報告書など) 4. 演習 (報告書、回覧文、案内文、企画書、議事録など) | | 1. 社外文書の作成 (取引文書、社交や儀礼のための縦書き文書) 2. 演習 (通知書、依頼書、挨拶状、案内状など) 3. ビジネスメールの基本知識 (メールのマナー、社内と社外メールの違い) 4. 文書の取扱い (発信方法、保管方法など) | |
| 成 績 評 価 方 法 | | | |
| 前 期 | | 後 期 | |
| 1. 定期試験……………50% 2. 提出物……………30% 1. 平常点その他…20% | | 1. 定期試験……………50% 2. 提出物……………30% 1. 平常点その他…20% | |

| | | | |
|---|---|--|-------|
| 科目名 | ファイナンシャルプラン | 総授業時間 | 90 時間 |
| 担当教員 | 城 戸 ゆりか | 単位数 | 6 単位 |
| 開講期間 | 4 月～9 月 | 実務経験 | 有 |
| 科目の概要 | 社会保険、資産形成、保険、税金、不動産などの基礎を学び、将来に役立つ金融の仕組みを理解する。 | | |
| 到達目標 | ファイナンシャル・プランニング技能検定 3 級の取得を目指し、幅広く金融の知識を身に付ける。 | | |
| 目標検定 | ファイナンシャル・プランニング技能検定 3 級 | | |
| 使用テキスト | 『わかる！受かる！！FP 3 級 テキスト&問題集 (マイナビ)』 『スッキリとける 過去+予想問題 FP 技能士 3 級 (TAC 出版)』 『知るぼると これであなただもひとり立ち』 | | |
| 授 業 内 容 | | | |
| 前期授業計画 | | 後期授業計画 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ● ライフプランニングと資金計画 (教育資金計画・住宅資金計画・社会保険・公的年金・企業の年金等) ● リスク管理 (生命保険・損害保険の仕組み等) ● 金融資産運用 (株式・債券・投資信託等) ● タックスプランニング (所得税の計算・所得控除および税額控除等) ● 不動産 (不動産の基本・不動産取引等) ● 相続事業承継 (相続税・贈与税等) ● 試験対策 (過去問および模擬試験の実施等) <p>※順番変更あり</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ● ファイナンシャル・プランニング技能士検定、試験対策 ・ マネーの基礎知識 ・ 資産運用について ・ 金融商品の種類 ・ 新 NISA、iDeCo、ふるさと納税 ・ 保険の知識 | |
| 成 績 評 価 方 法 | | | |
| 前 期 | | 後 期 | |
| 1. 定期試験…………… 50% | | 1. 課題…………… 50% | |
| 2. 小テスト…………… 30% | | 2. 検定(F P 3 級合格)… 30% | |
| 3. 平常点その他………… 20% | | 3. 平常点その他………… 20% | |

| | | | |
|--|---|--|-------|
| 科目名 | ビジネス知識応用 | 総授業時間 | 60 時間 |
| 担当教員 | 徳 田 智恵子 | 単位数 | 4 単位 |
| 開講期間 | 4 月～12 月 | 実務経験 | 有 |
| 科目の概要 | 3 級の知識を前提とし、企業の役割や責任など理解するとともに、効率的な業務の進め方や問題解決のためのコミュニケーションを身につける | | |
| 到達目標 | 社会人として必要となる知識を得て、ビジネス能力検定ジョブパス 2 級に合格する | | |
| 目標検定 | 職業教育・キャリア教育財団主催ビジネス能力検定ジョブパス 2 級 | | |
| 使用テキスト | 日本能率協会 ビジネス能力検定ジョブパス 2 級公式テキスト 日本能率協会 ビジネス能力検定ジョブパス 2 級公式試験問題集 | | |
| 授 業 内 容 | | | |
| 前期授業計画 | | 後期授業計画 | |
| 1. オリエンテーション 2. キャリアと仕事 3. 会社活動 4. ビジネス会話 5. 接客と営業 6. クレーム対応 7. プレゼンテーション 8. チームワーク 9. ビジネス用語 9. 問題演習 | | 1. 仕事の進め方 2. ビジネス文書 3. 会社の数字 4. 法律と税金 5. 問題解決 6. ビジネス用語 検定試験対策 | |
| 成 績 評 価 方 法 | | | |
| 前 期 | | 後 期 | |
| 2. 試験その他……50% ※定期試験、小テストの結果 3. 提出物………30% 4. 平常点その他…20% | | 2. 試験その他……50% ※検定試験、小テストの結果 3. 提出物………30% 4. 平常点その他…20% | |

| | | | |
|---|--|---|-------|
| 科目名 | ビジネスマナー応用 | 総授業時間 | 30 時間 |
| 担当教員 | 江 口 ちひろ | 単位数 | 2 単位 |
| 開講期間 | 4 月～12 月 | 実務経験 | 有 |
| 科目の概要 | 社会人として自信をもって取り組めるように、事例を入れながら、基本のビジネスマナーや、接遇の心構えを学びます。 | | |
| 到達目標 | 相手のために何が出来るかを考え、職場や社会でのコミュニケーションを円滑にするための実践的なマナーを身につけます。 | | |
| 目標検定 | なし | | |
| 使用テキスト | なし（適宜、講師よりプリントが配布される。） | | |
| 授 業 内 容 | | | |
| 前期授業計画 | | 後期授業計画 | |
| 1. 社会人としての心構え/ビジネスマナーの必要性 2. 好印象の挨拶振り返り/立ち居振る舞い 3. ビジネスの言葉遣い（敬語/慣用表現） 4. 好印象の言葉遣い 5. 訪問のマナー（就職活動）/名刺の扱い方 6. 来客対応のマナー 7. ビジネスの訪問マナー 8. 電話対応のマナー（全5回予定） ・名乗り方/基本の受け方/取り次ぎ対応 ・担当者不在の電話対応/基本のかけ方 ・ケーススタディ | | 1. 報連相のマナー（3回） ・分かりやすい伝え方 ・意図を掴む指示の受け方 ・ケーススタディ 2. 個人宅の訪問マナー 3. 会議とオンラインのマナー 4. 顧客満足を考える ・傾聴ワーク ・効果的な質問を考える 5. 社会人に必要なコミュニケーション ・アサーションワーク 1.2 ・感情のコントロールを考える 6. 冠婚葬祭のマナー 7. 食事のマナー 8. 社会人の自己紹介/心構え | |
| 成 績 評 価 方 法 | | | |
| 前 期 | | 後 期 | |
| 1. 定期テスト……60% 2. 課題………20% 平常点その他…20% | | 1. 定期テスト……60% 2. 課題………20% 平常点その他…20% | |

| | | | |
|---|---|---|-------|
| 科目名 | 体育Ⅱ | 総授業時間 | 30 時間 |
| 担当教員 | 赤川 智保 | 単位数 | 2 単位 |
| 開講期間 | 4 月～12 月 | 実務経験 | 無 |
| 科目の概要 | 実践形式で行う。毎回ストレッチを行い、様々なスポーツを体験し、体力を高める。 | | |
| 到達目標 | スポーツを通して身体を動かす楽しさについて理解し、健康の維持増進を図る。コミュニケーション能力を養う。 | | |
| 目標検定 | なし | | |
| 使用テキスト | なし | | |
| 授 業 内 容 | | | |
| 前期授業計画 | | 後期授業計画 | |
| 1. ガイダンス 2. ストレッチ 体づくり運動 3. ストレッチ ネット型球技① 4. ストレッチ ネット型球技② 5. ストレッチ ゴール型球技③ 6. ストレッチ ゴール型球技④ 7. ストレッチ ネット型球技⑤ 8. ストレッチ ネット型球技⑥ 9. ストレッチ ゴール型球技⑦ 10. ストレッチ ゴール型球技⑧ 11. ストレッチ ネット型球技⑨ 12. ストレッチ ネット型球技⑩ 13. ストレッチ ニュースポーツ① 14. ストレッチ ニュースポーツ② 15. まとめ | | 1. ガイダンス 2. ストレッチ 体づくり運動 3. ストレッチ ネット型球技① 4. ストレッチ ネット型球技② 5. ストレッチ ゴール型球技③ 6. ストレッチ ゴール型球技④ 7. ストレッチ ネット型球技⑤ 8. ストレッチ ネット型球技⑥ 9. ストレッチ ゴール型球技⑦ 10. ストレッチ ゴール型球技⑧ 11. ストレッチ ネット型球技⑨ 12. ストレッチ ネット型球技⑩ 13. ストレッチ ニュースポーツ① 14. ストレッチ ニュースポーツ② 15. まとめ (ミニバレーボール、バレーボール、バスケットボール、卓球、バトミントン、ドッチボール、ドッチビー、フライングディスク、縄跳び他) | |
| 成 績 評 価 方 法 | | | |
| 前 期 | | 後 期 | |
| 1. 主体的に取り組む姿勢…80% 2. 平常点その他……………20% | | 1. 主体的に取り組む姿勢…80% 2. 平常点その他……………20% | |

| | | | |
|---------------------------------|---|---------------------------------|-------|
| 科目名 | 企業講話Ⅱ | 総授業時間 | 15 時間 |
| 担当教員 | 企業経営者 | 単位数 | 1 単位 |
| 開講期間 | 4 月～12 月 | 実務経験 | 有 |
| 科目の概要 | 北海道の第一線で活躍する企業等の経営者による講話を聴講する。 | | |
| 到達目標 | 社会人としての考えや企業の考えなど様々な視点で物事を考えることができるようになる。 | | |
| 目標検定 | なし | | |
| 使用テキスト | 適宜、講師よりプリントが配布される。 | | |
| 授 業 内 容 | | | |
| 前期授業計画 | | 後期授業計画 | |
| 経営者による講話 | | 経営者による講話 | |
| 成 績 評 価 方 法 | | | |
| 前 期 | | 後 期 | |
| 3. 必要授業時間数を満たした科目に適用する S 評価とする。 | | 3. 必要授業時間数を満たした科目に適用する S 評価とする。 | |

| | | | |
|---|---|---|-------|
| 科目名 | コミュニケーションアワーⅡ | 総授業時間 | 30 時間 |
| 担当教員 | 工 藤 貴 子 | 単位数 | 2 単位 |
| 開講期間 | 4 月～12 月 | 実務経験 | 有 |
| 科目の概要 | 本校の校訓である「自主共生」を体現し、学校生活を楽しく過ごす活動をする。また、就職活動に関する指導を実施し、卒業までに就職内定をできるようにする。 | | |
| 到達目標 | 校訓の「自主共生」について理解し、自ら正しく判断できるようになり、クラス全員で協働することができるようになるようにします。 | | |
| 目標検定 | なし | | |
| 使用テキスト | なし | | |
| 授 業 内 容 | | | |
| 前期授業計画 | | 後期授業計画 | |
| 1. オリエンテーション 2. 就職に関する指導 ● 求人票の紹介 ● 就職状況の説明 1. フィールドワーク 2. バスレクリエーション 1. クラスレクリエーションの企画 | | 1. 就職に関する指導 ● 求人票の紹介 ● 就職状況の説明 2. クラスレクリエーションの実施 3. フィールドワーク 1. スポーツ大会 | |
| 成 績 評 価 方 法 | | | |
| 前 期 | | 後 期 | |
| 必要授業時間数を満たした科目に適用する S 評価とする。 | | 必要授業時間数を満たした科目に適用する S 評価とする。 | |